

登録コード	L3092400	開講年度	2026				
担当教員	杉山 暢宏			副担当			
授業科目	精神疾患とその治療						
英文授業名	Psychiatric Disorders and Treatments						
授業タイトル							
単位数	1	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限
講義室	保健学科 2 4 1 講義室	遠隔授業科目			読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ, 2 0 2 0 Lカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力			⇔	精神医学の基本（診断・治療）について理解する。		
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ, 2 0 2 3 Lカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	精神医学の基本（診断・治療）について理解する。		
	【2023年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	精神医学の基本（診断・治療）について理解する。		
	【2023年度以降カリキュラム対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			⇔	臨床心理学実践における様々な精神医学的な課題に対応していくことができる。		
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	代表的な精神障害について診断・治療などの基本的な医学的知識を学習する。 本授業は、1年次に学んだ「生理学」「中枢神経解剖学」の知識を前提とし、2年次前期の「内科学」「薬理学」とも密接に関連し、2年次後期の「精神医学II」の基礎となるものです。 本授業は担当教員の医療機関や行政機関における精神科医としての実務経験を活かして講義を行います。 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。						
授業計画	第 1回 (4月13日) 精神医学総論（教科書 第1章）、精神症候学（教科書 第3,5章） 第 2回 (4月20日) 統合失調症 1 （教科書 第10章） 第 3回 (4月27日) 統合失調症 2 （教科書 第10章） 第 4回 (5月1日) うつ病, 双極症 1 （教科書 第11, 12章） 第 5回 (5月11日) うつ病, 双極症 2 （教科書 第11, 12章） 第 6回 (5月18日) 不安症, 解離症, 身体症状症（教科書 第13, 14, 15章） 第 7回 (5月25日) 強迫症, PTSD（教科書 第13, 14, 15章）<中間試験> 第 8回 (6月1日) 摂食症（教科書 第16章） 第 9回 (6月8日) 物質関連症, 嗜癖症 1 （教科書 第18章） 第10回 (6月15日) 物質関連症, 嗜癖症 2 （教科書 第18章） 第11回 (6月22日) パーソナリティ症（教科書 第21章） 第12回 (6月29日) てんかん（教科書 第20章） 第13回 (7月6日) 認知症（教科書 第19章） 第14回 (7月13日) 精神発達（教科書 第4章）神経発達症（教科書 第9章） 第15回 (7月27日) 総合討議とまとめ 授業アンケート 第16回 (8月3日) <期末試験>						
成績評価の方法	中間試験（5月25日）、期末試験（8月3日）を課す。いずれも筆記試験で行い、それぞれ50点満点とし、合計したものを最終評点とする。最終評点が60%に達しない場合に限り、積極性、適宜行う確認小テストの結果などを総合的に判断し、期末試験の得点に加点するが、この場合、最終評点は60%を越えない。総合的な加点を行っても評点が60%に達しない場合は「不可」とする。 中間試験と期末試験では、精神医学の基礎、すなわち、精神医療と社会の関わり、精神症候学、精神障害の分類、主要な精神障害の特性、診断、治療、リハビリテーションなどの理解度を確認する。						
成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある（可）」,応用問題が解ければ「やや上にある（良）」,やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」,例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」 これらは中間試験および期末試験の合計点において 90－100点：秀 80－89点：優 70－79点：良 60－69点：可 におよそ相当する。						
事前事後学習の内容	授業計画で示した毎回の授業内容に、教科書で予習・復習しておくべき箇所を指定する。						

事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回、授業の終わりに、次回までに調べてくるべき予習（事前学習）内容について説明を行います。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について復習（事後学習）してきた内容や、能動学習として学んできた内容についての質問を行いますので、自分なりの言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んで下さい。 本授業の単位修得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 事前・事後の自己学習時間15時間（1時間×15回）＝ 45時間 ※ 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んで下さい。
履修上の注意	本授業は、eALPSに事前にアップロードするパワーポイントスライドの講義資料、その他参考資料および板書に基づいて進めます。 能動学習による理解の深化を目指すために、グループワークや授業中の質疑応答にも重きを置いて、授業を展開していきます。 授業は予習（事前学習）を前提としています。事前に教科書の該当箇所をしっかりと予習して、自分なりに理解してくるようにしてください。
質問、相談への対応	精神医学の基本的な知識と技術は、医療・地域保健分野の全ての職種にとって必要不可欠です。睡眠、食欲、意欲や認知機能等を正しく評価する能力や、抑うつやせん妄等への適切な対応も求められます。精神医学の正しい理解と知識が深まるように指導したいと考えます。 精神医学は未だ発展途上にある学問ですが、一緒に楽しく勉強しましょう。 質問への対応：オフィスアワー参照。 オフィスアワー：授業のある月曜日12:10-13:00 保健学科南校舎2階 杉山研究室にて対応します。 連絡、相談など：保健学科 作業療法学専攻 杉山暢宏 (nsugi@shinshu-u.ac.jp)
教科書	尾崎紀夫，三村將，水野雅文，村井俊哉 編集『標準精神医学 第9版』（医学書院）
参考書	1) 滝川一廣著『子どものための精神医学』（医学書院） 2) 月子(著)，七海 仁(原著)『Shrink-精神科医ヨワイ- 全17巻』（ヤングジャンプコミックス） 3) ヨンチャン(著，原著)，竹村 優作(原著)『リエゾン -こどものこころ診療所- 全21巻』（モーニング KC） 4) 柏木ハルコ(著)『健康で文化的な最低限度の生活 全13巻』（ビッグコミックス） ※これらの参考書は、医学部図書館および杉山研究室にありますので、積極的に閲覧・参照するようにしてください。